

各機関の取組内容

○水防上危険が予想される場所の現状を把握し、災害時の初動対応等に備えるため、防災関係機関(姫路河川国道事務所・自衛隊・兵庫県・警察)合同で現地踏査を実施



対策整備が完了した箇所や今後整備が予定されている箇所、漏水が認められるため池の現地踏査を行い、警戒が必要な箇所や有事における各機関の連携について確認した。



蟠洞川の整備状況の確認



市川の整備状況の確認



皿池の漏水状況の確認

取組を実施した効果、成果

- ・防災関係機関と水害リスクのある箇所を情報共有できた。
- ・現地を実際に確認することで、災害発生時に迅速な対応が可能となる。

【姫路市】防災講演会「姫路防災のつどい2022」の開催

取組
番号 7・30

○講演者を招き、市民や防災関係者等に対し、防災講演会を実施

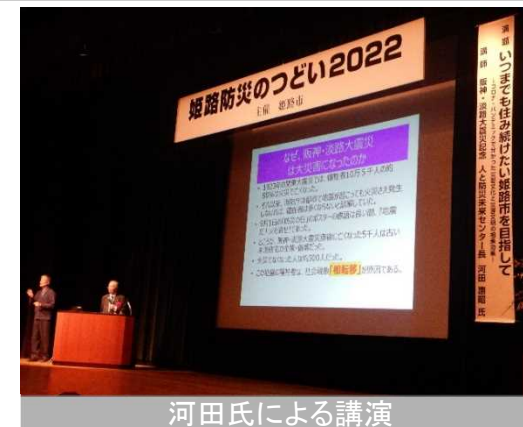


【実施日時等】

- 日時：令和4年10月2日（日） 10:00～12:00
- 場所：姫路市市民会館 大ホール・展示場（総社本町112番地）
- 参加者：約300名（市民・防災関係者等）

【実施内容】

- 講演者
河田 恵昭（かわた よしあき）氏 人と防災未来センター長
- 演 題
いつまでも住み続けたい姫路市を目指して
～コロナ・パンデミックで分かった災害文化と災害文明の相乗効果～
 - ・知っていますか？歴史が教える国連のSDGs（持続可能な開発目標）のねらい
 - ・コロナ・パンデミックが教えてくれた災害文化の大切さ
 - ・なぜ大災害に備えることが豊かな社会づくりにつながるのか
 - ・“いのち輝く、こころ豊かな未来社会”を実現する



河田氏による講演



河田氏と市長の対談

取組を実施した効果、成果

- ・講演会の開催により、災害に対する市民一人ひとりの危機意識を高め、地域防災力の向上を図ることができた。

【姫路市】 姫路市総合防災訓練・国民保護訓練の実施について

取組 7・26・
番号 28・30

○揖保川流域地域(エコパークあぼし)において、大規模災害を想定し、SDGsやDXに関するテーマを掲げ、関係機関と連携した災害発生時の対応訓練を実施。

実施日時：令和4年10月29日(土) 午前10時00分～12時00分
参加機関：国・県・市防災関係機関・消防団・医療機関・協定関係・
ライフライン関係等・地区連合自主防災会
参加者数：約1,000人



応急救護所開設・トリアージ訓練



自主防災会による負傷者搬送訓練

○訓練内容

- ・オンラインによる連携訓練
- ・救助救出訓練
- ・被害状況調査訓練
- ・応急救護所開設・トリアージ訓練
- ・新型コロナウイルス感染症対応訓練
- ・避難所開設・運営訓練
- ・災害時要配慮者等対応訓練
- ・要配慮者施設避難訓練 など



避難所開設・運営訓練



被害状況調査訓練

取組を実施した効果、成果

- ・大規模災害に備え、防災関係機関との連携強化を図ることができた。
- ・訓練参加者や訓練見学者への防災意識の啓発につながった。

施策名：宍粟市総合防災訓練

参加者：自主防災組織、関係団体等



負傷者のトリアージ訓練の様子

◆実施内容

第1部訓練：地域内での訓練

第1部訓練では、豪雨災害を想定して、各地域で自主防災組織が一時避難所の開設や避難訓練などを実施。災害時における住民の安否確認の方法や負傷者の応急手当の仕方などを確認した。また、地域の被害情報などを市災害対策本部に伝達する連携訓練も行った。

第2部訓練：関係団体も交えた訓練

第2部訓練では、会場を波賀総合スポーツ公園に移し、消防や警察などによる救出訓練や関係団体による展示や体験コーナーを設置。「見て」「聞いて」「体験する」訓練を実施した。

◆取組の成果

①参加者

第1部訓練：約1,300人 第2部訓練：約450人

②成果

新型コロナウイルス感染症の影響で住民参加型の訓練は3年ぶりであった。感染症対策も行いながら、災害を想定した各種訓練を行うことができ、参加者の防災意識向上につながった。また、訓練でうまくいかなかった点などは、今後の反省として生かしていく。



浸水歩行体験の様子

施策名：個別避難計画の作成

対象者：避難行動要支援者



避難訓練の様子

◆実施内容

①計画作成

兵庫県の「防災と福祉の連携による個別避難計画作成促進事業」を活用し、計画作成を希望する避難行動要支援者の計画を介護支援専門員や相談支援専門員、地域住民等と連携して作成した。

②防災訓練にあわせて避難訓練

市や地域の防災訓練にあわせて、事前に作成した個別避難計画に基づいて避難訓練を実施。避難行動要支援者本人及び避難支援者が、実際に避難する経路や避難場所などを確認した。

③振り返り

訓練の中で判明する問題点などを参加者全員で振り返り、作成した計画の修正などにつなげた。

◆取組の成果

①作成数

事業活用による作成数：16件(R4年度末見込み数)

個別避難計画作成数：119件(R4年度末見込み数)

②成果

実際に避難行動をすることにより、問題点や改善点などが抽出できた。また、関係者が集まることにより地域の中での助け合い意識の醸成にもつながった



振り返り会議の様子

施策名：条件不利地間伐推進事業

内 容：森林経営計画の樹立が困難な奥地等の森林（条件不利地）における森林所有者等の森林整備に対する補助支援を行うことで、切捨間伐により森林の水源涵養機能の維持を図った。

成 果：切捨間伐の実績総面積
61.96ha

施策名：森林整備促進事業

内 容：森林所有者等が民有林において行う間伐などの費用補助を行うことで森林整備が進み、水源涵養機能の維持を図った。

成 果：間伐予定面積 600ha

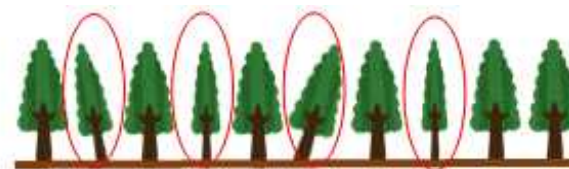


間伐後の山間部

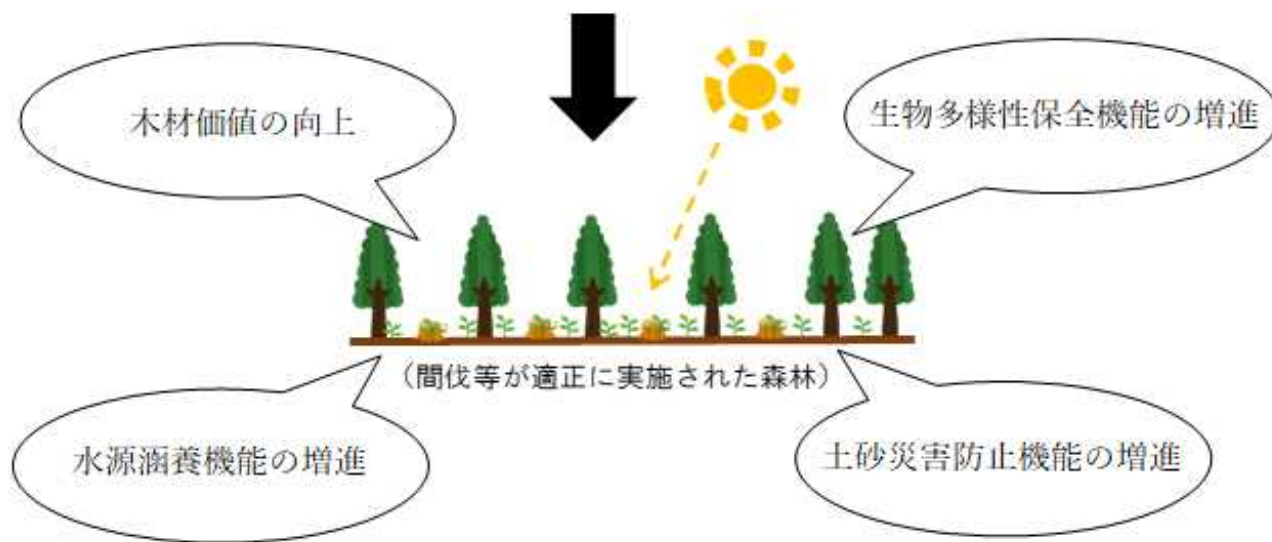
施策名：公有林整備事業

内 容：市直営林内において、切捨間伐だけではなく搬出間伐も行う。搬出間伐を行うことにより、林地残材の減量化もできる。間伐を行うことで災害に強い森林づくりにつなげた。

成 果：切捨間伐の実績総面積
2.50ha
搬出間伐の実績面積
15.68ha



(成長の悪い立木や曲がった立木を抜き伐り)



間伐のイメージ（林野庁HPより）

施策名：道路新設改良事業（幹線排水路）

内 容：穴栗市山崎町山田から同下広瀬までの道路新設改良工事とあわせて幹線排水路を整備。雨水幹線整備事業で整備している雨水幹線路と接続し、雨水の円滑な排水及び内水氾濫の防止につなげる。

成 果：整備完了 L = 300m
(全体計画 L = 800m)

施策名：雨水幹線整備事業

内 容：穴栗市山崎町千本屋の雨水幹線路を整備し、雨水の円滑な排水及び内水氾濫の防止につなげる。

成 果：整備完了 L = 146m
(全体計画 L = 330m)



工事中の幹線排水路

施策名：田んぼダム

内 容：貯留機能を有する水田に堰板を設置し、
雨水の流出を抑制する。

成 果：実績総面積 約417ha
堰板配布数 1637枚
※前年度から継続



田んぼに設置された堰板

施策名：ため池の事前放流

内 容：事前に水位を下げることで洪水発生を
抑制する。

成 果：市内ため池64箇所を実施
※前年度から継続



ため池の排水用切り欠き

【たつの市】ため池の治水利用（流域対策）

取組
番号 5

● 豪雨による増水に対応するための水位調整

○兵庫県「ため池治水活用拡大促進事業」を利用し、ため池の治水利用に取り組む

（道谷池：たつの市新宮町篠首）

- ＜取組期間＞ 9月1日から10月31日まで
- ＜放流水位＞ 満水位から3m低い水位
（第一斜樋バルブの取水口の水位まで放流）
- ＜減水水量＞ 6,366.6㎡



（大正池：たつの市揖保川町原）

- ＜取組期間＞ 9月1日から10月31日まで
- ＜放流水位＞ 満水位から0.4～0.6m低い水位
- ＜減水水量＞ 8736.8㎡



取組を実施した効果、成果

- ◆ 事前放流により水位を調整することで、雨水貯留容量を確保し、河川の急激な増水を防ぐことができる。

【たつの市】 田んぼダムの設置（流域対策）

取組
番号 5

● 田んぼダムの設置により、急激な増水を防ぐ

○従来型の田んぼダムとあわせて自動給水排栓等を設置する「スマート田んぼダム」を設置

スマート田んぼダム実証事業「金剛山地区」



取組を実施した効果、成果

- ◆ 排水流量の抑制により下流域の河川の急激な増水を防ぐことができる。
- ◆ 実施総面積：496ha、せき板配布数：2,174枚（令和4年度末時点）

● 水位計の設置により、河川から内水側への逆流を察知し、内水氾濫を防ぐ

○島田第2排水樋門と山下排水樋門に水位計を設置



取組を実施した効果、成果

◆ 水位計の設置により河川から内水側への逆流を察知し、早期に樋門開閉の判断をおこなうことができる。

【たつの市】地域防災リーダー育成研修の開催

取組 7・10・24
番号 29・30

● 講師を招き、ひょうご防災リーダーに対し、フォローアップ講座を実施

○播磨科学公園都市定住自立圏構成市町と連携し「フォローアップ講座」を実施

○日 時：令和5年3月11日（土）
9：30～12：00
○場 所：宍粟防災センター（宍粟市）
○参加者：一般市民 計20名

【次第】
1. 開会
2. 防災講演
「まちを元気にする防災活動のヒント
～楽しい防災のススメ～」
講師 室崎 友輔 氏
3. ワークショップ
「楽しく学べる防災プログラムの体験」
4. 閉会

【たつの市】防災教育、避難訓練等の実施

取組 7・10・24
番号 29・30

● 地域連携防災訓練事業を実施

○小学校区の自治会役員を対象に地域連携防災訓練事業を実施

○日 時：令和5年2月18日（土）
9：00～12：00
○場 所：小宅小学校体育館・グラウンド
○参加者：市民 計150名、消防団員
防災関係機関

【内容】
1. 緊急地震速報（訓練放送）による避難場所参集訓練
2. 指定避難所への避難訓練
3. 県消防防災ヘリコプターと連携した物資搬送訓練
4. 西はりま消防本部たつの消防署による
初期消火訓練
応急救護・搬送訓練
5. 兵庫県治山林道協会による土石流体験
6. 段ボールベッド組立訓練
7. 兵庫県警察、陸上自衛隊、関西電力送配電㈱による
災害対応資機材等展示
8. 防災食試食訓練

【たつの市】防災教育、避難訓練等の実施

取組 7・10・24
番号 29・30

● 防災出前講座や地域連携防災訓練事業を実施

○兵庫県「マイ避難カード」作成支援事業を活用し、防災出前講座及び講師派遣事業を実施

○日時：令和4年8月21日（土） 15：00～17：00 ○場所：中臣公民館 ○参加者：市民 計28名 (中臣自治会)	1. みんなで助かる地区防災計画 (神戸常盤大学 講師 室崎 友輔氏) 2. マイ避難カードの作成ワークショップ
○日時：令和4年9月3日（土） 10：15～12：00 ○場所：小宅公民館 ○参加者：市民 計35名 (堂本自治会)	1. みんなで助かる地区防災計画 (神戸常盤大学 講師 室崎 友輔氏) 2. マイ避難カードの作成ワークショップ
○日時：令和4年11月19日（土） 19：00～21：00 ○場所：中井公民館 ○参加者：市民 計25名 (中井自治会)	1. みんなで助かる地区防災計画 (神戸常盤大学 講師 室崎 友輔氏) 2. マイ避難カードの作成ワークショップ
○日時：令和5年1月22日（日） 19：00～21：00 ○場所：新宮公民館 ○参加者：役員 計48名 (連合自治会新宮支部)	1. みんなで助かる地区防災計画 (神戸常盤大学 講師 室崎 友輔氏) 2. マイ避難カードの作成ワークショップ
○日時：令和5年2月5日（日） 9：00～12：00 ○場所：グリーンハイツ公民館 ○参加者：市民 計25名 (グリーンハイツ自治会)	1. みんなで助かる地区防災計画 (神戸常盤大学 講師 室崎 友輔氏) 2. マイ避難カードの作成ワークショップ



取組を実施した効果、成果

- ◆ 地区防災計画策定の必要性の周知と避難判断のサポートツールとなるマイ避難カードの作成方法を周知することで、住民の防災意識の向上につながった。

【たつの市】災害基礎知識講座の開催

取組 7・10・24
番号 29・30

● 神戸地方気象台防災官を講師に招き、災害基礎知識講座を開催

○市職員を対象とした災害基礎知識講座を開催

- 日 時：令和5年1月23日（月）
10：00～11：30
- 場 所：たつの市役所新館4 F 大会議室
- 参加者：市職員 計42名

【次第】

1. 開会
2. 気象台の発表する防災気象情報の活用について
天野 地域防災官
3. 地震と津波 生駒 南海トラフ地震防災官
4. 閉会



取組を実施した効果、成果

- ◆ 近年発生した風水害の状況や今後発生する可能性がある南海トラフ巨大地震について、基礎的な知識を習得するとともに、日頃からの備えについて学習する機会となった。

【太子町】ハード整備による洪水リスクの低減

取組
番号 5

○田んぼダム事業

田んぼが元々持っている水を貯める機能を利用し、雨天時の河川流量を低減するため、町内8自治会に堰板を配布した。



実施総面積：約77ha
堰板配付数：308枚
導入地区：阿曾、岩見構上、広坂、常全、馬場、岩見構下、田中、北之町

○ため池活用事業

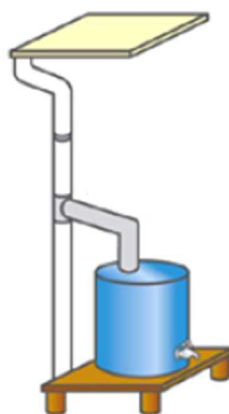
大雨前にため池の水を放流し、水位を下げることで貯留容量を確保して一時的に雨水を貯めることで、河川への流量を削減し、洪水リスクの低減を図っている。



数量：34基 総貯留量385,400m³

○雨水貯留施設設置助成金事業

雨天時の道路側溝等への雨水流量の削減・調整を図ること、貯留した雨水を災害時の防火用水・生活用水として再利用することを目的として、雨水を貯めるタンク及び付属設備に対して助成している。

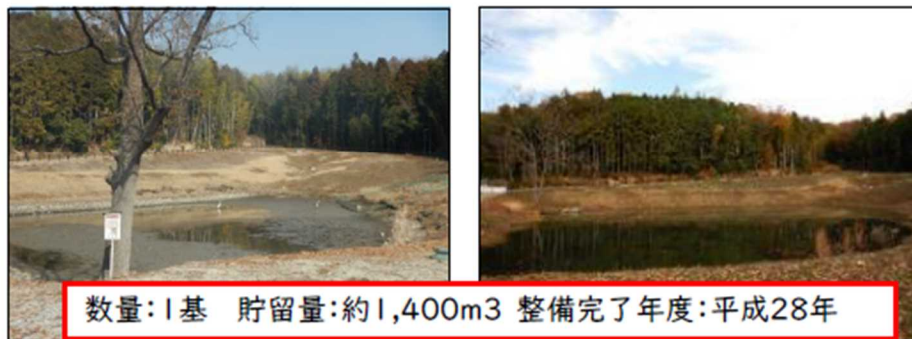


対象住宅	公共下水道の処理区域の住宅(アパート等借家含む)
助成金額	設置費用の1/2(限度額：3万) ※雨水タンク容量100ℓ以上のみ
助成対象	雨水タンク本体、附属品、送料、人件費相当額(業者委託)

導入実績：35基
(平成26年度～令和5年1月現在)

○公園雨水貯留施設整備事業

雨天時に雨水を貯留することで、河川への流量を削減し、洪水リスク・浸水被害の低減を図っている。



数量：1基 貯留量：約1,400m³ 整備完了年度：平成28年

【太子町】防災訓練の実施

取組 7・28
番号 30

○太子町防災訓練の実施

太子町における感染症蔓延下における災害発生を想定し、自主防災組織や地域住民、行政及び防災関係機関の参加により、実践的な訓練を実施



消防団による土のう工法訓練

○訓練内容

- ・避難訓練
- ・避難所開設訓練
- ・土のう工法訓練
- ・初期消火訓練
- ・防災講演会 等



避難所受付訓練

取組を実施した効果、成果

- ・防災意識を高め、事前の訓練の必要性について理解を得ることができた。
- ・新型コロナウイルス感染症を始めとした感染症に対する知識及びそれに対応した避難所の開設・運営を行う知識を身に着けた。



新型コロナ対応避難所開設訓練



防災講演会(講師:今石 佳太氏)

【太子町】防災協定の締結

取組
番号 14

○避難場所の確保、物資の確保等を目的として民間事業者と協定を締結

〈事例〉

協定名 : 災害時における物資の供給等の支援協力に関する協定
締結日 : 令和4年4月15日
締結先 : 株式会社ホームセンターアグロ
協定内容 : 災害時の食料・生活必需品・その他資機材の提供や物資の搬入について定めた協定



協定名 : 緊急時における生活物資等の確保に関する協定
締結日 : 令和4年12月1日
(対象店舗追加による再々締結)
締結先 : マックスバリュ西日本株式会社
協定内容 : 災害時の物資の供給及び店舗敷地を緊急避難場所とすることについて定めた協定



取組を実施した効果、成果

- ・地域企業と協同して、災害時に備えることができた。
- ・事前の取り決めを行っておくことで、災害時のスムーズな対応を行うための体制が整備された。

災害協定の締結状況

避難所：東芝姫路工場、網干自動車教習所、JR西日本網干総合車両所 等
物資支援：コープ神戸、西尾レントオール、本田冷蔵、大和紙器 等

【太子町】個別避難計画の作成の推進

取組 7・25・
番号 26・30

- 災害時避難行動要支援者等に関する連絡会を実施
災害時避難行動要支援者ごとに避難場所、避難経路等を定めた個別避難計画の作成に向けての取組



- ・自治会毎に想定される災害や災害時避難行動要支援者登録制度、個別避難計画について説明を実施している。
- ・各自治会内の災害時避難行動要支援者の情報の共有や避難経路の検討をすすめ、自治会内の危険場所の聞き取り調査を実施している。(R4.12 調査完了)



参加者
自治会役員、民生委員・児童委員、
社会福祉協議会、太子町企画政策
課(防災担当)、太子町高年介護課
(高年福祉担当)

取組を実施した効果、成果

- ・災害時避難行動要支援者の避難計画の重要性について、地域住民の理解を深めた。
- ・地域の避難行動要支援者について考えることで、自助、共助の重要性を再確認した。

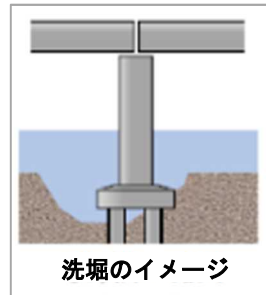
1. 防災の基本方針策定、想定最大規模降雨に係る危険箇所・タイムラインの見直し

2. 橋梁の洗堀調査

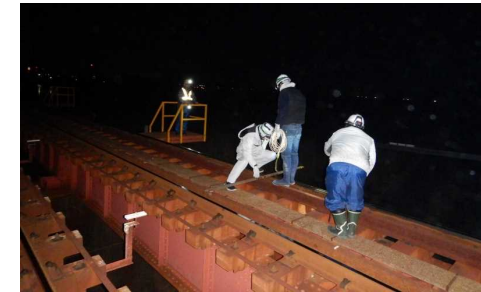
激甚化する自然災害に伴い、異常出水による河川橋梁の洗堀災害が頻発



河床状況を的確に把握し、被災リスクに応じた対策が必要

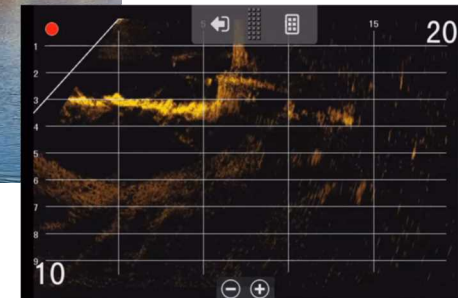


重錘法（錘を水中へ投下して深さを測定）による洗堀調査



加古川橋梁において洗堀調査を年1回実施

「ボート型ドローンによる洗堀調査実証事業」



ソナーによる取得データサンプル

ソナーを搭載したボート型ドローンを自動航行させ、河床の状況を把握 ⇒ 作業効率化・調査精度向上を図る

令和5年（2023年）1月31日
揖保川減災対策協議会・流域治水協議会幹事会

取組
番号 18・19・20

防災気象情報に関する取り組みの改善

神戸地方気象台

主な取組の紹介

1. キキクル「黒」の新設と「うす紫」と「濃い紫」の統合
2. 大雨特別警報（浸水害）の指標の改善
3. 線状降水帯による大雨の可能性を半日前からお伝えします
4. 高潮の早期注意情報（警報級の可能性）を毎日発表

1. キキクル「黒」の新設と「うす紫」と「濃い紫」の統合

警戒レベル4に相当するキキクル（危険度分布）は**紫**です

キキクルの色	警戒レベル	特別警報基準値超過を「黒」で表示
黒 災害切迫	5相当	これまでのキキクル これまでのキキクルの色 警戒レベル 濃い紫 - うす紫 4相当 赤 3相当 黄色 2相当 白(水色) -
紫 危険	4相当	
赤 警戒	3相当	
黄色 注意	2相当	
白(水色) 今後の情報等に留意	-	

警戒レベル4の「紫」と一致

質問1) キキクル「黒」が表示されていなければ災害は発生しないの？

⇒そうではありません。「黒」は、大雨による災害がすでに発生している可能性が高い状況であり、災害が発生する前にいつも出現するとは限りません。このため、「黒」を待つことなく、「紫」が出現した段階で、速やかに安全な場所に避難することが極めて重要です。

質問2) 市町村から発令される避難情報とどう違うの？

⇒市町村から避難情報が発令された際には速やかに避難行動をとってください。一方で、多くの場合、防災気象情報は自治体が発令する避難指示等よりも先に発表されます。このため、危険な場所からの避難が必要とされる警戒レベル4に相当する紫や高齢者等の避難が必要とされる警戒レベル3に相当する赤色が出現した際には、避難指示等が発令されていなくても、自主的に避難の判断をすることが重要です。



2. 大雨特別警報（浸水害）の指標の改善

令和4年6月30日開始

＜改善のポイント＞ 警戒レベル5相当の状況に一層適合させるよう、災害発生との結びつきが強い「指数」を用いて大雨特別警報（浸水害）の新たな基準値を設定。

＜改善前の課題＞

大雨特別警報（浸水害）を発表したが多大な被害までは生じなかった事例が多くみられる（例：平成26年8月の三重県の大雨事例、平成26年9月の北海道の大雨事例、平成29年7月の島根県の大雨事例）。

また、多大な被害が発生したにも関わらず、大雨特別警報（浸水害）の発表に至らなかった事例もみられる。

大規模な浸水害を高い確度で適中させるよう指標、基準値を設定

特別警報の
指標に用いる
基準値

中小河川氾濫に起因する大規模な浸水害を適中させるように流域雨量指数の指標、基準値を設定

内水氾濫に起因する大規模な浸水害を適中させるように表面雨量指数の指標、基準値を設定

洪水キキクル「災害切迫」（黒）の判定に用いる。

浸水キキクル「災害切迫」（黒）の判定に用いる。

- ✓ 大雨特別警報（浸水害）の対象地域を大幅に絞り込んだ発表が見込まれる。
- ✓ 島しょ部など狭い地域への発表も可能となる。
- ✓ 警戒レベル5相当の情報としての信頼度を高め、住民や自治体等の防災対応を強力に支援。

（参考）改善前の大雨特別警報（浸水害）の発表条件

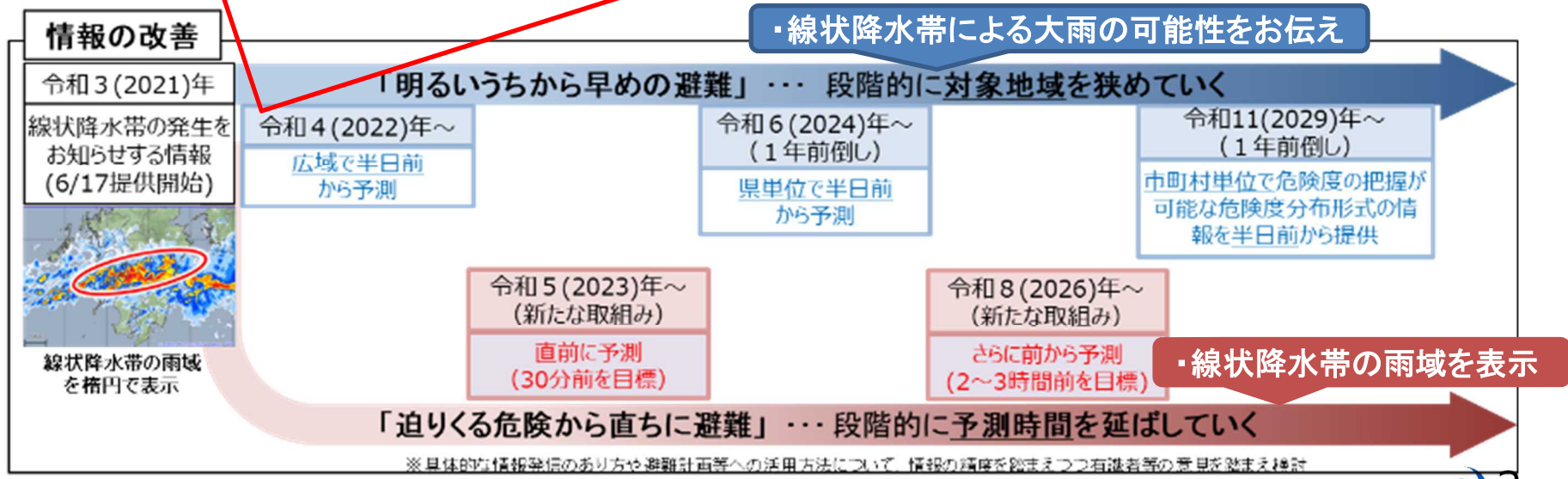
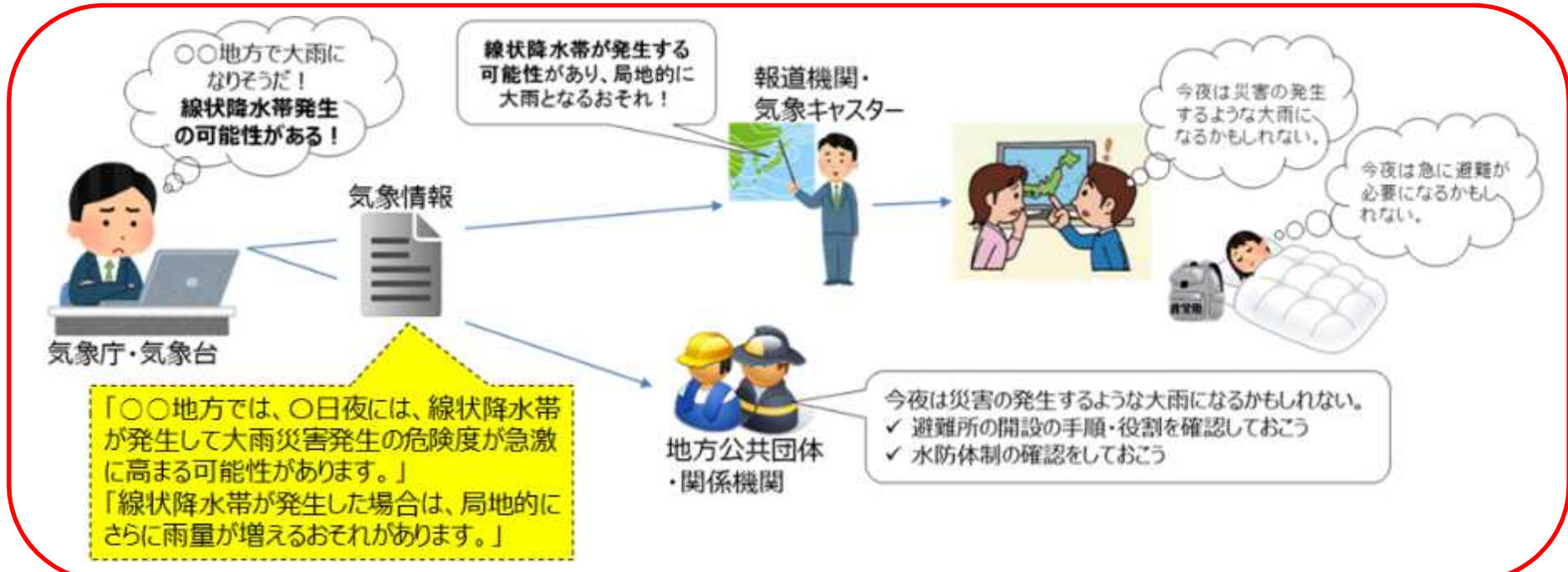
以下の①又は②を満たすと予想され、かつ、さらに雨が降り続くと予想される地域の中で、洪水キキクル又は浸水キキクルで5段階のうち最大の危険度が出現している市町村等に発表。

- ① 長時間指標 48時間降水量及び土壌雨量指数において、50年に一度の値以上となった5km 格子が、ともに50格子以上まとまって出現。
- ② 短時間指標 3時間降水量及び土壌雨量指数において、50年に一度の値以上となった5km 格子が、ともに10格子以上まとまって出現。

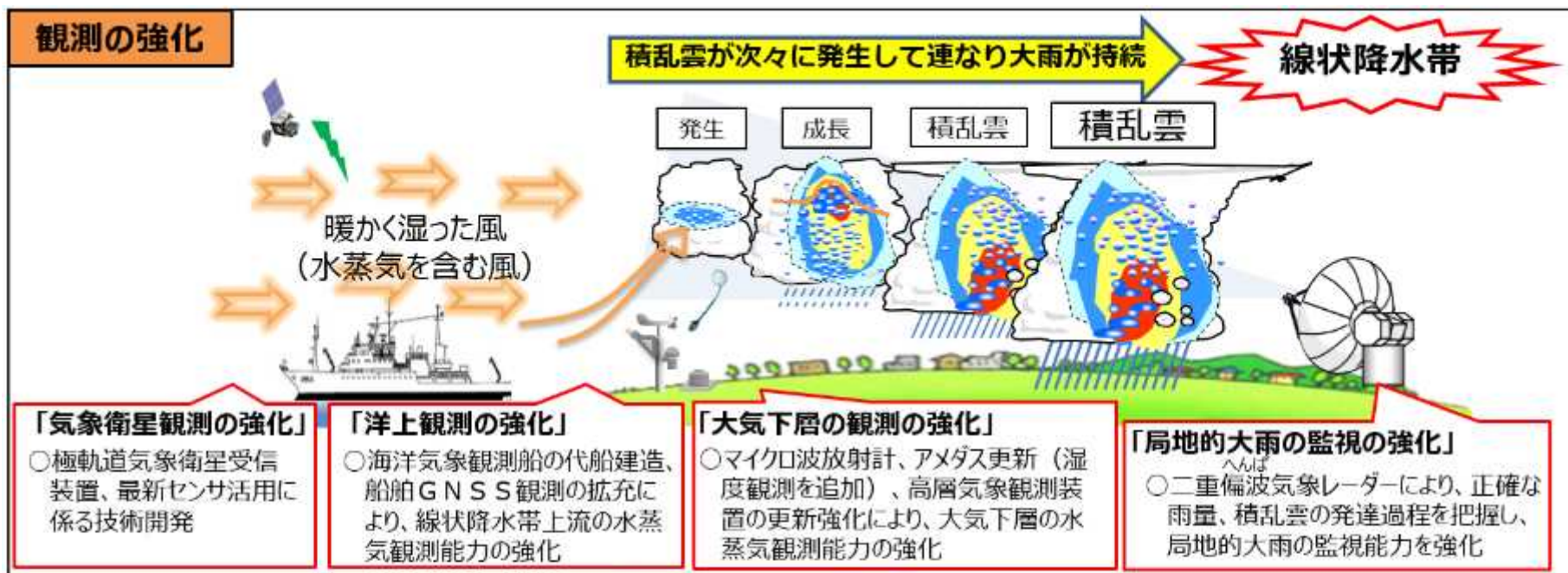


3. 線状降水帯による大雨の可能性を半日前からお伝えします

令和4年6月1日開始



線状降水帯の予測精度向上に向けた取り組み（観測・予測の強化）



水蒸気量等の観測データ

予測の強化 「次世代スーパーコンピュータの整備等」

- 高度化した局地アンサンブル予報等の数値予報モデルによる予測精度向上等を早期に実現するためのスーパーコンピュータシステムの整備
- 線状降水帯の機構解明のための、梅雨期の集中観測、関連実験設備（風洞）の強化
- 「富岳」を活用した予測技術開発

気象庁スーパーコンピュータシステム
スーパーコンピュータ富岳

予測モデルの高解像度化

より細かく、高度な気象予測を実施可能に

アンサンブル予報

大量の予測計算を実施し、これらの結果を分析することにより、より確からしい予報を提供

令和4年度出水期の実績 ～線状降水帯による大雨の半日前からの呼びかけ～

- 気象庁では、令和4年6月より、線状降水帯による大雨の可能性が高いことが予想された場合、半日程度前から「線状降水帯」というキーワードを使ってその旨を呼びかけている。
- 線状降水帯は予測が難しい現象であることから、現状では、「〇〇地方」といった広域での呼びかけを行っている。
- 令和4年度出水期の実績では、運用開始前に想定したのとほぼ同程度の予測精度であったが、引き続き、予測精度の向上に向けた取組を強化。

	運用開始前の想定 (過去3年間のデータから検証)	令和4年度 出水期
<p>適中</p> <p>線状降水帯発生への呼びかけ「あり」 線状降水帯の発生「あり」</p>	4回に1回程度	13回中3回
<p>見逃し</p> <p>線状降水帯発生への呼びかけ「なし」 線状降水帯の発生「あり」</p>	3回に2回程度	11回中8回

現時点では運用開始前に想定したのとほぼ同程度の予測精度

- 線状降水帯発生への呼びかけを行った13回中、実際に線状降水帯が発生したのは3回であるが、それ以外にも、
 - ・ 3時間降水量が150mm以上となった事例が2回
 - ・ 3時間降水量が140mm～150mmとなった事例が2回
- あることから、この呼びかけが行われたときには、大雨災害への心構えを一段高めていただくことが重要である。

適中した事例

7月18日23:50までの3時間降水量

←7/18～19の九州北部地方の例

↓9/17～19の九州北部地方、九州南部・奄美地方の例

9月18日16:00までの3時間降水量

9月19日00:00までの3時間降水量

3時間降水量 (mm/3h) 0 20 40 60 80 100 120 140 160 180 200

※図は運用開始前の気象庁の予測結果を示しています。実際の発生状況は図と異なる場合があります。

線状降水帯の発生に至らなくても大雨（3時間降水量が150mm以上）となった事例

7月18日20:00までの3時間降水量

9月19日03:00までの3時間降水量

3時間降水量 (mm/3h) 0 20 40 60 80 100 120 140 160 180 200

7/18～19 九州南部・奄美地方の例

9/17～19 四国地方の例

4. 高潮の早期注意情報（警報級の可能性）を毎日発表

令和4年9月8日開始

- 台風が存在する場合にのみ発表していた高潮の警報級の可能性を、早期注意情報（警報級の可能性）として毎日発表（気象庁ホームページの「警報・注意報」に各地の高潮の早期注意情報を掲載）。
- 早期注意情報において高潮に関する警報級の可能性[高]または[中]が予想されている場合、高潮災害への心構えを高める必要があるとされる警戒レベル1に位置付けられます。

気象庁ホームページでの高潮の早期注意情報の掲載イメージ

✓ 台風が存在するかどうかにかかわらず、毎日、高潮の早期注意情報（警報級の可能性）を発表。

東京都の早期注意情報(警報級の可能性)										
○年●月12日11時 気象庁 発表										
東京地方では、13日までの期間内に[高]及び[中]はない。今後の情報に留意。										
東京都東京地方		12日		13日		14日	15日	16日	17日	
		12-18	18-24	00-06	06-12	12-24				
大雨	警報級の可能性	-	-	-	-	-	[中]	[高]	-	-
	1時間最大	15以下	15以下	15以下	15以下	15以下				
	3時間最大	25以下	25以下	25以下	25以下	25以下				
	24時間最大	50以下								
大雪	警報級の可能性	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6時間最大	0	0	0	0	0				
	24時間最大	0								
	最大風速	陸上 9以下	9以下	9以下	9以下	9以下				
暴風(雪)	海上 9以下	9以下	9以下	9以下	9以下					
	警報級の可能性	-	-	-	-	-	[中]	[高]	-	-
波浪	波高	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5				
	警報級の可能性	-	-	-	-	-	[中]	[高]	-	-
高潮	警報級の可能性	-	-	-	-	-	[中]	-	-	

大雨、大雪など他の要素に加える形で提供開始

警戒レベルとの位置づけ

警戒レベル	住民が取るべき行動	気象庁等の情報
5	命の危険 直ちに安全確保！ <ul style="list-style-type: none"> すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。 	高潮氾濫発生情報
4	危険な場所から全員避難 <ul style="list-style-type: none"> 過去の重大な災害の発生時に匹敵する状況。この段階までに避難を完了する。 台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。 	高潮特別警報 高潮警報
3	危険な場所から高齢者等は避難 <ul style="list-style-type: none"> 高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。 	高潮警報に切り替える可能性が高い 高潮注意報
2	自らの避難行動を確認 <ul style="list-style-type: none"> ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。 	高潮注意報
1	災害への心構えを高める	早期注意情報(警報級の可能性)

新たに位置づけ

